

さて、皆さん、お弟子さんたちに囲まれて立つ、この人物が、誰だかわかりますか？



昨年2019年が、没後500年にあたり、世界各地で記念の展覧会や特別番組も放映された「万物の天才」と言われた「レオナルド・ダ・ヴィンチ」(1452～1519・67歳)です。なぜ、万物の天才かというと、「モナ・リザ」や「最後の晚餐」を描いた画家として有名ですが、絵画だけではなく、彫刻、軍事工学、航空機設計、建築、人体解剖、天文学、物理学、音楽、演劇など、さまざまな分野で豊かな才能を発揮した人です。常に溢れるばかりの熱意をもって、前に進み、新たな道を切り拓いていった人です。

ただ、当時では、あまりに斬新な発想であったため、大きな壁に突き当たり、成功しなかったもの、完成しなかったものもたくさんあります。素描・手稿には、たくさんのアイデアが書き記されています。戦車や空飛ぶ機械(グライダー・ヘリコプター)、ペスト流行の時は、「給水路」「下水路」を分けた都市設計、布織機など、後世の人が、そのデザインを現実に実用化しています。

レオナルドは、「画家は、想像しうるすべてのことを、まず、心に描き、手の中に宿らせる。そして、すべての調和がとれたと思う時、描き始めると、素晴らしい絵ができる」と言っています。彼にとっては、「調和がとれた瞬間」が、すべてであって、そのあとの完成、未完成、失敗、成功は、あまり意味がなかったのかもしれませんが。それだからこそ、謎の人、コスモスケープ(cosmoscape・「宇宙」「世界」「秩序」を表すギリシャ語)の人などと呼ばれています。

今日、みなさんに「レオナルド・ダ・ヴィンチ」を紹介しようとした理由は、3つあります。

1つ目は、先に挙げたように数々の特別番組(レオナルドの誕生日は、4月15日)を見て、偉大な人物であったことを再認識したこと。

2つ目に、2年生の国語の教科書に『君は「最後の晚餐」を知っているか・布施英利』(遠近法・一点透視図法)という作品を読んで、興味をもったこと。

3つ目は、今、実際のヨーロッパ、イタリアに行くことが困難なので、ルネッサンスの三巨匠「レオナルド・ダ・ヴィンチ」、「ミケランジェロ・ヴォナローティ」、「ラファエロ・サンティ」を訪ねながら、フィレンツェ、ミラノ、ローマ、ヴェネツィア、フランスなどを巡る旅に出てみようと思いました。

ぜひ、皆さんにもいろいろな人物を訪ねながら旅の気分を味わってほしいと思います。

レオナルド・ダ・ヴィンチに興味がある人は、映画にもなったダン・ブラウン原作『ダ・ヴィンチ・コード』も合わせて、読んでみてください。

ラファエロ画 「アテナイの聖堂」 バチカン宮殿（ラファエロの間）



古代ギリシャの哲学者、科学者などを描いた画面の中央に位置するのはプラトンとアリストテレスで、中央左側のプラトンに扮しているのがレオナルド・ダ・ヴィンチとされている。

また画面右端の上段で赤と紫の衣服を着ているのが、古代ギリシャの有名な画家アペレスに扮したラファエロ自身が描かれている。

中央手前の紫の衣服をまとい肩肘をついている人物は、ヘラクレイトスに扮したミケランジェロ。ラファエロとミケランジェロは、同世代の画家でシスティーナ礼拝堂の天井画に感動したラファエロは、敬意を表すために作品の中央手前に目立つようにミケランジェロ（を暗示した）人物を配したという。



レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」はどれでしょう？



正解は、国語科・美術科の先生に聞いてみよう。